

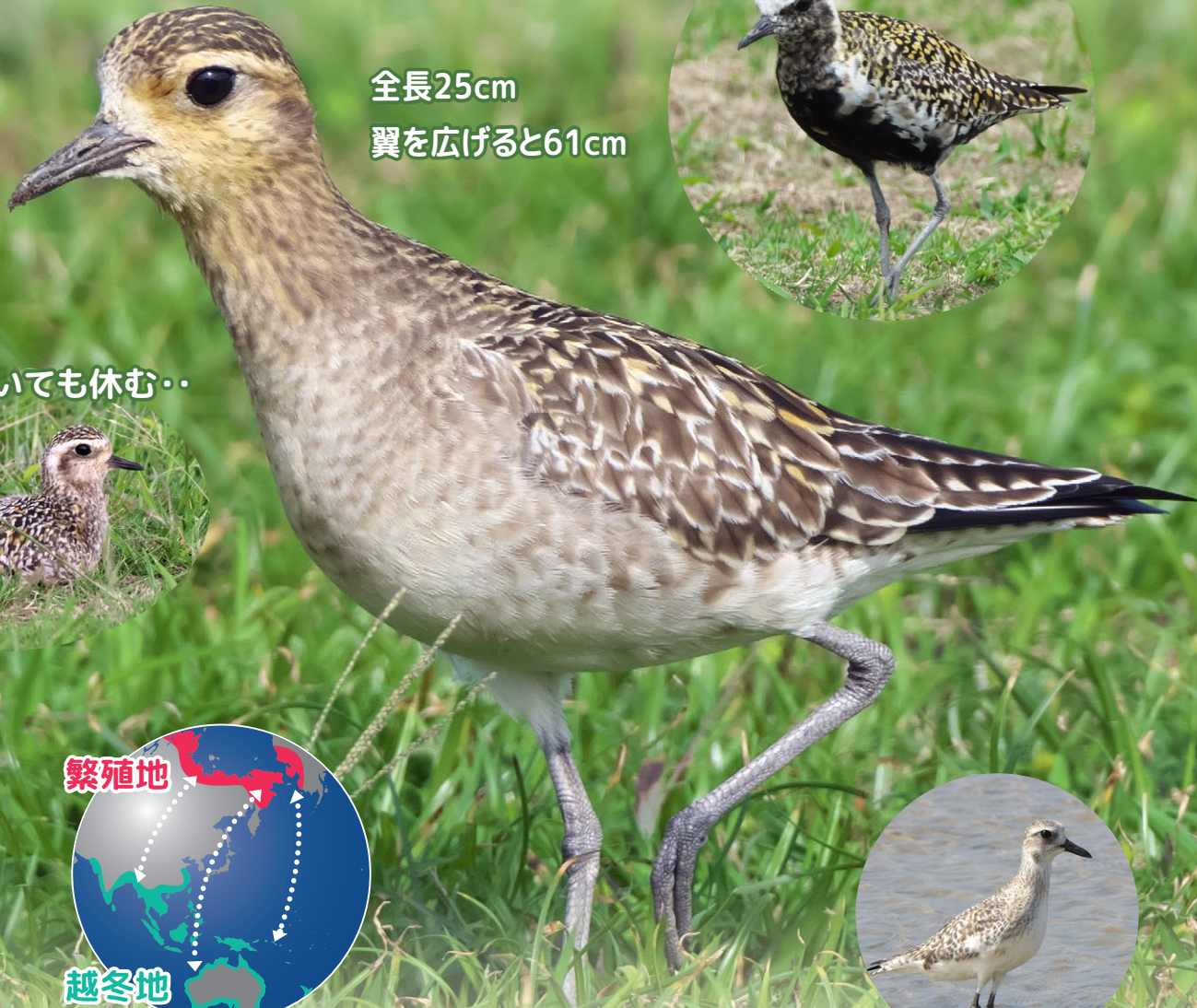


10,000キロ以上旅する 身近なつわものムナグロ

天城町総合運動公園にもっとも長居する渡り鳥、ムナグロをご存じでしょうか？ 大型のチドリで、一般的に冬鳥と呼ばれつつも、徳之島へは8月半ばには飛来しはじめ、総合運動公園にある遊具のまわり、陸上トラック周辺などの芝地で採餌するようになります。ほか、空港の草地や刈られたサトウキビ畑、牧草地、海岸の磯や干潟などを移動しながら、主に小さな虫やエビ、カニ、ミミズやゴカイなどを食べて、秋冬を過ごします。時に、少年野球の試合中に、外野で観戦？することも。繁殖地はシベリアやアラスカの北部、いわゆる北極圏で、越冬のため最も南まで渡る群れは、なんとニュージーランドやオーストラリアの南海岸まで行ってしまいます。一直線に渡るわけではないので、飛行距離はゆうに**12,000キロを超え**、最も遠くまで渡っていく種のひとつ。根性があるためか、あまり人を恐れず・あまつさえ、好奇心から観察している人の方へ寄ってくることもあります。繁殖のため、北へ向かって渡去するのは4月ごろです。

夏羽の色合いが名の由来

ムナグロ(冬羽)



全長25cm
翼を広げると61cm



まわりに人がいても休む・・・



そっくりなダイゼン(冬羽)

鳥
知
織



- オソリハシギのうち、体の大きいメスは12,000キロを11日間ノンストップで北半球から南半球へ飛び記録を持っています。
- キョクアジサシは、その名の通り北極圏と南極圏を毎年往復し、長生きすると、生涯で地球と月を3往復する距離になるそうです。
- ヨーロッパアマツバメは、距離はさておき繁殖する時期をのぞいた10ヶ月間、飛びっぱなしのまま寝起きして生活しています。

もっと情報が見られる
電子版はこちら



ギネスブックの発端は、1950年代はじめ、当時ギネス醸造所の社長だったビーバー卿が、仲間とアイルランドで狩をしていたとき、ヨーロッパの狩猟鳥で最も速く飛ぶのはヨーロッパムナグロかライチョウかという議論。結局、調べても分からなかったで、色んな一番を集めた本を作れば町中のパブで話題となり、ギネス・ビールのプロモーションになるのでは？ と思いついたのだとか・・・